

4月8日（土）、9日（日）に鳥取県立倉吉体育文化会館で開催されるの見どころについて、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会日本代表ヘッドコーチ 安井博志氏に伺いました。

1. 本大会の紹介と位置づけ

- ・パリオリンピックを目指す第6期JMSCAパリオリンピック強化選手（以下、パリ強化選手）の国内選考大会である。
- ・大会の結果が1位、2位になった選手は、世界選手権大会への参加でき、3位の選手も第6期JMSCAパリオリンピック強化選手となり、世界選手権大会（スイス・ベルン 8月1日～12日）への出場を目指す。なお、すでに男女3名ずつは決定しているため、本大会が国内最終選考大会となる。
- ・パリオリンピックフォーマット（ルート）で競技が実施される数少ない大会となっており、ボルダーとリードのそれぞれの選手の到達ポイントの合計で競う。観戦者は各選手の勝敗が理解しやすいルールである。

2. スポーツクライミング日本代表チームの成績

- ・スポーツクライミング日本代表チームの2022年シーズンのIFSCクライミングワールドカップの成績は国別ランキングでボルダー種目、リード種目ともに世界一のチームである。
- ・つまり、今大会に参加する選手達は日本一を目指すと同様に世界一つまりオリンピックの金メダルを目指す選手達が参加している。

【IFSCクライミングワールドカップでの国別ランキング一覧】

年	ボルダリング	リード	スピード
2010	4位	3位	—
2011	4位	5位	—
2012	4位	3位	—
2013	2位	1位	15位
2014	1位	2位	19位
2015	1位	4位	15位
2016	1位	4位	15位
2017	1位	3位	21位
2018	1位	2位	13位
2019	1位	1位	14位
2022	1位	1位	8位

3. みどころ

- ・2に記したように、男女とも有望選手が多数おり、世界最高峰のレベルの大会となる。
- ・今大会に参加している選手の2022年世界ランキングを以下に示すと以下のようになっている。

	【ボルダーク種目】	【リード種目】
男子	1位 榑崎智亜 2位 緒方良行 3位 藤井快	4位 百合草碧皇 7位 吉田智音 9位 緒方良行 10位 樋口純裕
女子	2位 野中生萌 4位 伊藤ふたば	6位 谷井菜月 9位 中川瑠

・これだけの世界トップレベルの選手から表彰台に立つ3名だけしか、パリオリンピックへの道が残されていない。まさに熾烈な争いが予想される。

・男子は特に混戦となっていて、有望選手は榑崎智亜、榑崎明智の兄弟対決、そこへ緒方、藤井、樋口というワールドカップの常連選手に続き、百合草、吉田、川又、安楽、小俣という次世代選手も絡みまたその他にも多数の有望選手がいる状況となっている。

・女子は、森と伊藤がリードジャパンカップとボルダリングジャパンカップの複合ポイントが同点となり、今大会で第6期JMSCAパリオリンピック強化選手Sランク入りの決着がつけられる。また、そこへ東京オリンピックメダリストの野中が絡み、優勝争いは分からなくなっている。

・地元鳥取出身の高田知堯も2種目とも得意な種目であり、この大会で表彰台を獲得し、パリオリンピックへのチャンスを獲得したい。

※選手情報の詳細は、公式HPより

<https://www.jma-climbing.org/competition/2023/bljc/>

4. 最後に

オリンピック予選となる世界選手権へ繋がる本年度の最重要の国内大会となります。

このような重要大会が地方で開催されることはほとんど機会がないことであり、世界のトップレベル選手達のパフォーマンスを目の辺りにできる貴重なチャンスとなっています。スポーツ関係者やスポーツ好きの方ぜひ、そうでない方もパリへ行かなくても倉吉でオリンピック選手が見られる貴重な機会です。

また競技ルールを知らなくてもすぐに理解できるルールとなっています。

倉吉からパリへ繋がる本大会をぜひ見に来ていただき、選手達が長い期間トレーニングしてきたパフォーマンスを見て感動してほしいです。

鳥取の皆さんの声援を会場で選手達に直接届けていただければ幸いです。